

杉戸町記者発表資料

- 平成28年7月14日（木）
- 担当課 商工観光課
- 担当者 伊坂、高橋
- 電話番号 0480-33-1111（内線307）

杉戸宿開宿400年プロジェクト

こうさつば

住民と学生らによる「杉戸宿高札場復元」！

～杉戸宿開宿400年を記念して、町企業と日本工業大学の連携作業がスタートします～

杉戸町と町観光協会は、杉戸宿開宿400年を記念し、「時を超えた新たなシンボルと、杉戸宿の歴史を体感する場の創造」を目的として、かつて杉戸宿にあった「高札場」を製作・復元する「杉戸宿高札場復元プロジェクト」が、下記のとおり始動します。

今回の復元プロジェクトは、町民や町内企業・事業所、そして、包括的連携協定を締結している日本工業大学が連携して行います。その中で、歴史的建築物の専門家である日本工業大学の波多野 純 特任教授がプロジェクト全体の監修を行い、杉戸町内の大工や多くの建設系企業が参加し、日本工業大学の学生と共に作業を進めていくものです。

記

■復元する「杉戸宿高札場」の概要

1、高札場とは

高札場とは、幕府が決めた法令や公定運賃を木の板札に書き、高く掲げておく場所。江戸時代の杉戸宿にも高札場があったことは、日光道中分間延絵図などで確認されており、掲示されていた高札は一部残っているものの、高札場は現在跡地となっています。

【杉戸町に現存する高札】



【杉戸町内にある高札場跡地】



※高札場跡地は個人宅であり、現在は古民家が残る。（場所は、日光街道沿いの杉戸宿と関宿城下町（現千葉県野田市）を結ぶ地点。）

【参考：高札場（鳴海宿高札場）】



2、復元設置場所

旧日光街道沿い※下図参照

所在地：杉戸町清地1-2-129脇（JA埼玉みずほ杉戸中央支店駐車場脇）

※今回、高札場を復元設置する場所は、高札場跡地とは異なります。



3、復元形状

横幅：6.01m 高さ：3.78m 奥行：1.8m 材質：ヒノキ、スギ

■復元スケジュール

期日	曜日	作業内容	場所	備考
7月15日	金曜日・(大安)	現場清め	設置場所	
7月19日	火曜日	墨だし（設置位置決定）、土木工事、地業、捨コン	設置場所	可能であれば日工大学生参加
7月25日	月曜日	石積工事	設置場所	
8月1日	月曜日	基礎工事、木材加工作業（刻み）開始	設置場所	
8月2日	火曜日	■事業概要の説明 （波多野特任教授による説明） ■作業の公開 （日本工業大学学生による作業）	日本工業大学	日工大学生による作業実施
8月31日	水曜日・(大安)	■高札場上棟	設置場所	日工大学生参加
9月1日	木曜日	仕上げ、板金工事等	設置場所	
9月16日	金曜日	完成予定	設置場所	

※■の項目は、報道各社の取材対応を想定しております。

■ 杉戸宿高札場の監修者のコメント



は た の じゅん
波多野 純

日本工業大学特任教授（前学長）
杉戸宿開宿400年プロジェクト会議会長

埼玉県文化財保護審議会委員、
さいたま市文化財保護審議会委員、
東京都板橋区文化財保護審議会委員、
建築史学会常任委員、

《コメント》

杉戸宿開宿400年は、町の新たなコミュニティーを創出する良い機会になると思います。
今回の杉戸宿高札場の復元は、学生をはじめ、町内の大工の方々や、地元の建設・建築業界、材木店、石材店など、多くの方の協力を頂いて進めています。

復元された杉戸宿高札場は、当時の宿場町の象徴であり、時を超えた新たなシンボルとして、杉戸宿の歴史を体感する場になると思います。

高札場は小さなものですが、これを機会に、町に残る歴史的資産を発掘し、活用することで、町全体をひとつのミュージアムとして、後世に伝え、町の賑わいにつながっていければと考えています。

■復元事業のポイント

- 1、歴史的建築物の専門家である日本工業大学の 波多野 純 特任教授が監修
- 2、日本工業大学の学生が、設計や材木の加工、建方を体験
- 3、材木の加工は、町内の大工が直接指導
- 4、現場工事は、町の建設協力会や建築士会が学生との協働作業
- 5、材料の手配等も、町内の材木店や石材店などが協力

《ポイントイメージ》

